

「まちづくり交付金」を活用して 学校施設をバリアフリー化

神奈川県
山北町

● 山北町の概要

- 面積 224.7km²
- 人口 12,865人 (2006.1.1現在)
- 世帯数 74,158世帯
- 人口密度 58人/km²
- 人口増加率 -1.49%
- 高齢者、障害者等の動向
 - ・若者の転出により高齢化率は上昇している。
- 学校数 小学校5校、中学校3
- 担当課
 - ・山北町教育委員会教育総務
 - TEL (0465) 75-1122 (代)
 - URL <http://www.town.yamakita.kanagawa.jp/>



1 計画の特徴

- ① 「まちづくり交付金」を活用した整備事業
- ② トイレ改善を中心とした学習環境の確保
- ③ 地域交流・避難拠点としてのバリアフリー化

① 「まちづくり交付金」を活用した整備事業

厳しい財政状況の中、整備事業費の財源のひとつとして、国土交通省の都市再生整備計画に関する「まちづくり交付金」を活用している。

○児童用トイレ入り口にベンチを設置



② トイレ改善を中心とした学習環境の確保

児童、教職員等から改善要望が高かったトイレの全面改修にあたり、多機能トイレの設置やベンチ、掲示板を設けるなど、子どもたちの使いやすさを中心に校舎の改修計画を策定している。

③ 地域交流・避難拠点としてのバリアフリー化

地域住民との交流のためのコミュニティールームの設置や災害時の緊急避難所としての機能確保からスロープ、体育館のトイレのバリアフリー化を図っている。

2 計画の背景

学校関係者、保護者、地域住民から川村小学校校舎の耐震化、老朽化対策の必要性およびトイレが「臭い」「汚い」などの点について改善要望が高まっていた。

このような状況を受け、川北町は「川村小学校大規模改修事業」として、耐震不足校舎の取り壊し、校舎の内装改修、体育館の屋根改修等の改修計画を策定し、計画方針として、一般家庭の生活様式の変化に対応した、洋式トイレの採用、身体

障害者、高齢者の利用も考慮した学校施設のバリアフリー化を盛り込んでいる。

3 事業の概要

骨子

- 事業名 川北町立川村小学校
大規模改修工事
- 策定者 川北町
- 策定期間 平成16年3月
- 対象施設 川北町立川村小学校
- 事業期間 平成18年4月～平成19年2月

改修整備の内容

- トイレの全面改修
 - ・自動水洗、センサー照明、多機能トイレ
- 廊下、階段等の塗装
- コミュニティールームの新設
- 体育館屋根改修

○シャワー・バスタブを備えた多目的トイレ



整備財源

事業の整備財源は、町費、起債、まちづくり交付金となっている。

「まちづくり交付金」は、国土交通省が地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あるまちづくりおよび、地域住民生活の質の向上、活性化を目的としている補助制度である。(p39参照)

「まちづくり交付金」は、都市再生推進が主たる目的とされているため、教育施設のまちづくりにおける位置づけについて関係当局と町全体において活発な協議が行われた。

4 検討組織

教育委員会、PTA、学校関係者および設計者による協議会を設置し、改修計画を策定。また、計画の策定にあたっては児童の意見も反映している。

●今後の課題と研究会コメント

- 地域が主体となった特徴あるまちづくりの実施にあたり、学校施設を広域避難所や開かれた公共施設として位置付け、国土交通省の「まちづくり交付金」事業としてバリアフリー化や耐震補強、老朽校舎の改修等に取り組んでいる。

また、避難所としての機能を考慮して体育館のトイレにいたるスロープを取り付けるなどバリアフリーへの意識が高い。